

2021年度(令和3年度)学校評価自己評価表

松永中学校区	校番 33	福山市立柳津小学校
最終更新日		2022年(令和4年)2月28日

I 福山市

ミッション 福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン 「福山100NEN教育」の基本理念のもと、各中学校区・学校が「21世紀型“スキル&倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容 ・コロナ禍の中、各学校感染拡大防止策を考え工夫されて学習、行事に取り組まれている。来年度も、子どもたちが自分でルールなどを考えながら、学校が楽しいと感じられるように校区の学校が取り組んでほしい。 ・評価項目の8項目において、十分満足、概ね満足できるという肯定的評価をいただいでおり、引き続き努力してほしい。	児童生徒の現状 ・全国学力調査などから、算数・数学では説明する力、国語では文脈に則して語彙を適切に書く力など自分の考えを表現する力に課題がある。 ・他者意識が低く、挨拶をしない児童生徒が多い。 ・交通ルールが守れず、事故件数が増えている ・児童生徒の自己肯定感が低い。	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”) めざす子ども像 (義務教育修了時の姿) 中学校区として統一した取組等	“コミュニケーション能力&感性・思いやり” 自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することができる力を身につけた子ども” ・授業づくりにおいて、「少人数での協働的な学びあい活動」、「問い続けたいくなるような発問の工夫」、「効果的なICTの活用」などに取り組む ・あいさつ運動に取り組む ・親子で語り合ったり、ふれあったりする時間を増やすことに取り組む
--	---	---	---

III 目 校

ミッション 福山及び柳津町に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。松永中学校区においては、その模範の姿を示す。	育成する力 (21世紀型“スキル&倫理観”) めざす子ども像	コミュニケーション力(合意形成力) & 感性・思いやり(実行力)													
学校教育目標 進んで学び 豊かな心でたくましく生きる子どもの育成		<table border="1"> <thead> <tr> <th>育成する力</th> <th>コミュニケーション力</th> <th>感性・思いやり</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1・2年</td> <td>進んで自分の考えを伝え、相手の考えも聞ける子</td> <td>ルールを守り、進んで手助けができる子</td> </tr> <tr> <td>3・4年</td> <td>自他の考えの良さや課題を理解できる子</td> <td>相手の立場を考え、自分から行動できる子</td> </tr> <tr> <td>5・6年</td> <td>相互の意見をよりよくできる子</td> <td>相手の立場を考え、ともによりよい行動ができる子</td> </tr> </tbody> </table>	育成する力	コミュニケーション力	感性・思いやり	1・2年	進んで自分の考えを伝え、相手の考えも聞ける子	ルールを守り、進んで手助けができる子	3・4年	自他の考えの良さや課題を理解できる子	相手の立場を考え、自分から行動できる子	5・6年	相互の意見をよりよくできる子	相手の立場を考え、ともによりよい行動ができる子	
育成する力	コミュニケーション力	感性・思いやり													
1・2年	進んで自分の考えを伝え、相手の考えも聞ける子	ルールを守り、進んで手助けができる子													
3・4年	自他の考えの良さや課題を理解できる子	相手の立場を考え、自分から行動できる子													
5・6年	相互の意見をよりよくできる子	相手の立場を考え、ともによりよい行動ができる子													
現 状 (子ども) ○個別最適な学びづくりを目指した授業づくりを通し、自分で学びを進める学習が楽しいと感じる子が増えてきている。 ← (「やり方を考えたり、自分で決めて勉強をしたりすることが楽しい」…82.4%) ●家庭学習については、意欲や内容面において、学びが起きているとは言い難い。 ●自分の考えを自分なりの表現で、人に伝えようとする意欲、技能に課題が大きい。 ●自分たちで主体的に話し合いをしたり、行動したりすることが苦手な子が多い。 ●見通しをもった行動がしにくく、教師の声かけが必要な子が多い。 (授業等:昨年度取組) ・単元の中で「一人ですること、みんなですること」を織り込み、「最低限教えること」を踏まえた授業づくりに取り組んだ。 ・子どもスポーツ大会の実施、生徒指導規程の見直しなど、子どもの話し合いによる意思決定、企画運営の素地づくりに取り組んだ。	研究 教科等 全科目・領域 主題・内容等 児童が主体的に考え、学ぶ授業づくり ～一人一人の個別の学びを通して～														
	めざす授業の姿	・一人一人の児童が、様々な方法で学びに夢中になる授業 ・教科の特性をふまえた、一人一人の個別の学びが認められる授業													

年 目	中期経営 目標	重 点	分 類	短期 経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)				
							□指標に係る 取組状況	力 評 価	達 成 評 価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	力 評 価	達 成 評 価	綜 合 評 価	改善方策
2	主体的 に学び続 ける児童の 育成	★	継続	個別最 適な学び を基盤に した授業 を日常化 させる	① 一斉授業や単 元のすべての内容の 教え込みの意識をど う変えたのか、授業 者自身が交流し、月 末に自己判定する。 ② 家庭学習を、児 童が自分で学ぶ内 容・量を決めて行うよ う、発達段階を踏まえ て取り組む。	① 月末自己 判定「子ども主 体の学びを実践 している」と捉え ている」教職員 …70%以上 ② 「自分で 内容を決め、家 庭学習に取り組 んだ」児童 …80%以上	・ 教職員アンケート「子ども主 体の学びを実践している」と捉 えている」66.6% ・ タブレットを使った新しい 学びを各授業者が研究した り実践したりする中で、子ど も主体の学びの実現に向け て取り組めた。 ・ 児童アンケート「自分で 学習の内容を決め、家庭学 習に取り組を進めた」93%以 上 ・ 内容面については、十分学 びが進んでいると言え難く、 先生からの課題も引き続き 実施している。	3	3	・ タブレットを使う効果も十分あ るが、単元をしっかり見直し、子ど もが学びに向かう単元づくりをし ていく必要がある。夏休みには、2 学期の全教科について子ども主 体の学びが実現できる単元構成 を、全授業者で見直しに取り組 んだ。今後、「みんなですること ・ 一人ですること」を意識した授業 を仕組んでいく。 ・ マイチャレの質の向上に取り 組んでいく。良いノートを紹介し たり、個別にアドバイスを加えたり しながら、自分の苦手を克服する 方法について考えさせたり、自分 のやりたいことをより質の高いレ ベルの学びへと引き上げる支援 を行ったりしていく。	□教職員アンケート「子ど も主体の学びを実践してい る」と捉えている」100% ◎ 子ども主体の学びの 実現に向けて、自己課題 をもとに授業改善を図 った。学びが十分には起 きではないが、教師の意 識ははるかに高まった。 □児童アンケート「自分 で学習の内容を決め、家 庭学習に取り組を進めた」 94% ◎ 全国学テの結果から、 学びに必要な知識理解 の定着に課題があること が分かった。自分に必要 な学習内容は何かを考 えさせたり、教師から提 案したりして家庭学習の 内容の見直しを図った。	3	3	3	・ 年間を通した単元 づくりや、自己課題 に応じた授業研究 を、今後も実施し ていく。授業者は各教 科における学ぶべき 内容を明確にして 授業にあたり、子ど もの学びにじっくり と向きあっていくこ とを通して、個別最適 な学びの実現を図 っていく。 ・ 授業と家庭学習を つなぐことを今後も 一層図っていく。子 どもが主体的に学 びを進めるために 必要な知識理解 の習得について、子ど も一人一人と対話 を通して実現してい く。
2	相互の 意見を大切にし、楽 しく生活し ようとする 児童の育成		継続	児童の 自治的活 動への満 足度を高 める	① 学級をよりよくす る活動の話し合い、 代表委員会などを中 心にした異学年での 話し合い活動の場を 増やす。	「自分の意 見が学級や学校 に生かされた と感じている」児童 …70%以上	・ 児童アンケート「自分の 意見が学級や学校に生か されたと感じている」68% ・ 全校委員会を組織し、高 学年を中心とした自治的 活動への参加意欲を高め ることができた。 ・ 異学年での話し合いの場 が十分に確保できず、子 どもたちが企画したことが実 践できないことがあった。	3	3	・ 学期に1回以上、合意形成を 図る学級会を行い、子ども相互 で話し合う場を設ける。	□児童アンケート「自分 の意見が学級や学校に 生かされたと感じてい る」71.5% ◎ 生活目標達成に向け て各学級や委員会で話 し合い、コロナ禍でも できることを考え実行した。 ◎ GoogleMeet を使 って代表委員会を行い、他 学年との意見交流が できた。	3	3	3	・ 月に1回代表委員 会を設定し、生活目 標や各行事につい ての話し合いを行 い、合意形成を図 る中で、さらなる自 治的活動への満足 度を高める。 ・ 児童自らが企画 した委員会を組織 し、役割を明確に して取り組むこと ができるように、 児童との対話を通 して実現していく。
2	主体的 な学びを 創り出す教		継続	職員が、 元氣と笑顔 で仕事をす	① 自分の主務に対 し、課題を見つけ、改 善策を提案する。	「仕事に意義 とやりがいを感じ ている」教職	・ 教職員アンケート 「仕事に意義とやりがい を感じている」100%			・ 組織としての目的の共有は 徹底し、方法などについては各 担当職員の主体性に任せるこ	□教職員アンケート 「仕事に意義とやり がいを感じている」…	3	3	4	・ 組織としての目 的を共有した上で、 各職員は、主体的 に自分の業務を担

職員体制の構築	る	② タスクマネジメントシートをもとに、スケジュール管理を自分自身で徹底する。	員 …90%以上	3	3	とでやりがいや達成感を充実させる。 ・児童と向き合う、特に授業づくりの時間を、各職員が自分自身でつくるため、本質的協議を通じた、各取組のスリム化、会議等の精選、校務補助員の積極的活用などに取り組む。	100% ◎月間残業時数45時間以内…100% ◎年間残業時数360時間以内…71% ◎長期病気休暇取得者…0%	当をし、管理職はその進捗状況を迅速に把握する。 ・管理職は、各職員のセルフコントロールの意識を上げることで、各職員が子どもと向き合う時間を共に生み出す。
---------	---	--	-------------	---	---	--	---	---

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。